

特別寄稿

米「WRAPSCON」に登場

株デザインラボ 代表取締役 荻谷伊

今年7月20日から22日 FOLなど、金糸で使用にアメリカのロングビーチ、カルフォルニアコンベンションセンターで「NMB SHOW」が開催されました。

日本サイン&ディスプレイショウと同じサインと印刷機材を展示するもので、アメリカ各地で行われている展示会です。

ラッピングに焦点を当てた祭事

今回は、その展示会内で年1回実施している「WRAPSCON」が行われました。WRAPSCONはサインの中でもマーキングフィルム特にラッピングなどに焦点を当たったイベントで、今年は3M、AVER Y、HEXIS、ORAC



WRAPSCONの中でも、今日は「WRAP」で、チーム「SAMURAI」とチーム「OLYMPICS」と題し、「貼る」に特化したコンテストが開催され、私はカナダ在住の日本人で、サイン製作会社に勤める長谷川景一さん

と、チーム「SAMURAI」ジェット出力のフィルム「AI」とタックを組んで出場しました。長谷川さんは、ラッピング歴が3年とまだ経験は浅いのですが、北米市で様々な知識と技術を習得している素晴らしい貼り職人です。世界各地から32チームが参加! 大会は、金糸と世界各国から2人1組の合計32チーム(64人)が出場。午前、午後の2試合ずつのトーナメント方式で行われました。1日目・午前の部の「HEXISバトル」では、凹凸のあるラッピンググロードを5分間でいかにキレイに早く貼ることと、フロアに1×2格子の2分割されたインク



ラッピングするところも、貼ることだけを重視してしまって、デザインが犠牲になる。いわば頭から来ました世界ラッピング選手権で、年連続優勝のキス氏によるチーム「ハンガリーン」が優勝しました。この競技は、私たちサイン製作会社が行なう様々な「貼る」という業務が、余すところなく盛り込まれているのが特長です。制限時間は短く、課題を完成できないチームも多数いました。いくら早く仕上げてもシワや埃、めくれ、気泡、不正確な位置はすべて減点対象でした。

次の競技は、40分間で車両のフロントエンダーへのカーラッピング及び壁面のレンガにインクジェット出力のフイルムを10分間で、決められた位置へ正確に気泡なく貼る課題。チーム「SAMURAI」は初

翌日、ベスト8に絞られる午前の3回戦。課題は与えられたフィルムを使い、ヘルメットを30分間でフリーデザインにラッピングで4チームが残る「セミファイナル」までと題され、私はベスト4に残ったところが奇跡であり、2回戦となる午後の4回戦1戦となる午後の4回戦に臨みました。多くの出場者や、金糸から来る業界関係者の方々から多くの賞賛を頂きました。私も同様なコンテストの参加は5回目でしたが、競技課題をこなすには、日頃から仕事を通じて競技終了時は会場にて競技は現在、欧米を中心とした世界で行われています。

純日本人で構成した我々がベスト4に残ったことは奇跡であり、2回戦の競技終了時は会場にて競技は現在、欧米を中心とした世界で行われています。

そして、運命の3日目、セミファイナルを迎える午前の3回戦。課題凸があり、側面と角の処理はフィルムの特性が理解していないとキレイに解していかないとキレイに貼ることができない

アを、1時間で仕上げる「カーラッピング」が課せられました。ベスト4に残ったチームは、この業界では世界でも名の知れわたった職人ばかりだったこともあり、ここで敗退となりました。決勝戦は上位2チームが車両側面にフリーデザインのラッピングを行なわれた結果、日本でも今回のような競技が開催されれば、若手の職人育成と、技術の橋上に役立てるようになります。現在、どの業界でも職人不足が取り沙汰されていますが、サイン業界で頑張る方々の一層の地位向上になるのではと思いつつ、これからも精進していきます。